健康で豊かな住みよい町づくりをめざして

多良木町は先史時代から開発されたらしく、縄文式文化時代や弥生式文化時代の遺跡が各地に分布し、多くの貴重な遺物も出土しています。しかし、多良木の地名が歴史の上にあらわれてくるのは鎌倉時代以降です。建久のころ、源頼朝から多良木の荘をあたえられた相良頼景はいまの静岡から九州に西下して、球磨川河畔の東の前に館をかまえました。以来、藩政時代は相良氏の支配下にあり、上相良の居城たる鍋城を中心として球磨地方文化の発祥地となったのです。本町には国の重要文化財で鎌倉時代の特色を発揮した剛健優美な建造物である青蓮寺阿弥陀堂があり、また、鎌倉時代の古美術や史蹟名勝が数多くあります。

明治四年廃藩置県後幾多の改廃を経て明治二十二年市町村制施行により、多良木村、黒肥地村、久米村が生誕しました。大正十五年五月多良木村が町制を施行し、昭和三十年四月町村合併促進法により、多良木町、黒肥地村、久米村が合併して新しい多良木町となったのです。

本町は熊本県の南部、球磨郡の東部に位置し、県庁所在地の熊本市から一二一・四キロメートルの地点にあり、東は湯前町、宮崎県児湯郡西米良村、同郡須木村に、西は須恵村、免田町、岡原村に、南は上村、宮崎県小林市に、北は水上村相良村、五木村に隣接する農山村で面積一六六・四九平方キロメートル、人口一四、八二三人（昭和五十年国調）です。本町の南部及び北部は九州山脈の支脈を形成し、黒原山（一、〇一七メートル）、高塚山（九五九メートル）などの山々が連なり花立山（一、一〇一メートル）、高塚山があって市街地を形成しています。

○

本町の産業は農林業が主で、米、葉タバコ、イ草、メロン、野菜、畜産、酪農養蚕などが行われています。農業構造改善事業で、ほ場整備や農道の整備などを実施し、昭和五十四年度より新農業構造改善事業にとりくみ、畜産センターの建設もすみ、集落センターの建設や多目的研修センターの建設が計画されています。また、農協を事業主体にした野菜の集出荷、貯蔵施設もできています。

本町の面積の約八〇パーセントは山林原野であり、土地が肥沃で温暖多湿の気候にも恵まれ、樹木の育成に適し、杉、桧、赤松等の良材を産出しています。また、しいたけ等の林産物の栽培も盛んに行われています。

工業は繊維、軽電機、製材業、木製品焼酎醸造、食品等の製造加工工場があります。

商業は国道二一九号線沿いに商店街を形成しています。青果物や鮮魚の球磨総合地方卸売市場の建設がすすめられています。

○

本町には小学校七校（うち分校一校）中学校二校、幼稚園町立三ケ所、保育所町立二ケ所、私立三ケ所、県立養護学校があります。また、公民館が三ケ所、公民分館が四十ケ所、民俗資料館や八日原運動公園等があります。本町では特に、スポーツが盛んで、剣道、陸上、ソフトボール、バレーボール、ゲートボールなど老若男女をとわず健康づくりと親睦のため、活発に行われています。

以上多良木町の概況を述べましたが、本町では恵まれた自然と歴史的文化遺産を大切にし、健康で豊かな住みよい町づくりにつとめています。

わが町わが村　<多良木町>　わが町わが村

▲青蓮寺阿弥陀堂

▲多良木町畜産センター

▲百太郎溝取入口旧樋門（キュウヒモン）

百太郎堰 ▶

▲久米公園よりみた整備済のほ場